

浜名湖周辺の庭園について

アメイジングガーデン・浜名湖のプロジェクトを構成するのは、浜松市の浜名湖周辺に位置する 7 カ所の庭園です。具体的には、花を展示するさまざまな公園、自然が溢れる空間、桜の木に囲まれた城、寺、神社、抹茶や煎茶を味わえる茶室です。いずれも日本の伝統建築であり、春は満開の花、夏は鮮やかな緑、秋は紅葉を楽しめる素晴らしい場所です。

浜松では花の栽培が盛んで、従来から花が愛好されていますが、それは国際的な花の博覧会が浜松で開催されたことから明らかです。その 1 つが 2004 年に開催された「しずおか国際園芸博覧会 パシフィックフローラ 2004」で、世界中の花や植物関連の文化に関する祭典でした。こうした花の博覧会の経験を活かして 2019 年に始まったアメイジングガーデン・浜名湖の取り組みは、浜名湖とその周辺地域を 1 つの「アメイジングガーデン」として指定することによって地元の庭園への観光を促進することを目的としています。

アメイジングガーデン・浜名湖は、日本初の女性樹木医で栃木県のあしかがフラワーパークの園長を務めた塚本こなみさんの理念を盛り込んでいます。塚本さんの功績は国内でも有名です。塚本さんのアメイジングガーデン・浜名湖への取り組みに関する理念とは、浜松を彩る四季折々の鮮やかな美しさを効果的に見せるための 7 カ所の庭園すべての統合です。